



# 身近な「水」を題材に 持続可能な社会づくりを考える授業

中 陽佑 Naka Yosuke 奈良市立都祁<sup>つげ</sup>小学校 教諭

2019年度、JICA教師海外研修に参加しルワンダ共和国を訪れた。2020年度と21年度には科研費(奨励研究)の交付を受け、主に開発教育や国際理解教育の視点から教材開発をし、実践を重ねている

## 単元構想のきっかけとねらい

本校では、総合的な学習の時間や外国語の時間に、「水」について学習しています。校区には水源があり、水をテーマにした地域学習を縦軸、水をテーマにした世界の学習を横軸とし、複合的に取り組むことを目的として、単元を構想しました。

本単元の学習を通して世界の水の現状を知り、自分と世界を結び付けることで、自分たちにできることを考えること、自分たちの行動の変容につなげることをねらいとしています。

## ルワンダと接続した遠隔授業も

2020年度は、先に述べた横軸に関して、4、5、6年生の外国語の授業を中心に、計11時間の実践を行いました。

### ① 知る(計4時間)

まずは、自分たちが今持っている「水」についてのイメージを改めて考えてみることから始めました。世界では水が貴重であるということや、水をめぐって多くの争いが起きていることを伝えました。

その後、2019年度に私がJICA(国際協力機構)教師海外研修で訪れたアフリカのルワンダ共和国に焦点を当

て、現地での水の現状(水の入手方法や利用方法等)をJICAが作成した動画\*(ルワンダの都市部・地方部の水利用のようす)や、私が現地でも撮影してきた写真(水くみ場や水売りのようす等)を通して知らせるとともに、質問・疑問点をまとめてもらいました。

### ② 学ぶ(計5時間)

JICAルワンダ事務所とのオンラインミーティングを実施し、水を専門とする同事務所職員、現地でも水分野の支援をしていたJICA海外協力隊員から、ルワンダの水の現状を学ぶとともに、児童からの質問に答えてもらいました(写真1)。国内で水道を使える人は人口の9%に過ぎないこと、現地の人たちの水の入手方法、および現地の子どもたちが水くみをしているようすなどについて話してもらいました。そして、現地でも水くみ等に使用されているタンクと同じ20kgの重さのタンクを用意し、児童が実際に持ち上げてみるという体験も組み入れました(写真2)。意欲的にメモを取りながら、分からない点を質

写真1 オンラインミーティングのようす



写真2 水のタンクを持ち上げる体験(2021年度)



\* 独立行政法人国際協力機構(JICA)「世界につながる教室～授業で使える映像教材～」  
[https://www.jica.go.jp/hiroba/news/notice/2020/201008\\_01.html](https://www.jica.go.jp/hiroba/news/notice/2020/201008_01.html)

問する児童のようすが見られました。

また、その後の授業では、世界には水問題を抱えている地域がルワンダ以外にもたくさんあるということ、日本がそのような地域に多くの支援をしてきているということも伝えました。

### ③ 考え、発信する(計2時間)

「水」についてのイメージを再度考えながら、単元で学んだことを振り返りました。また、これまでの学習で学び得たことをまとめるとともに、持続可能な社会に向けて自分たちにできることを考え、毛筆で表しました(写真3)。

さらに、4年生では総合的な学習の時間とも連携させ、校区の水源地の水でたてたお茶を地域の行事で販売する活動や、世界の水問題解決のための募金活動も行いました(写真4、5)。

## 世界の水問題を自分事として理解

児童の振り返りからは、「この単元で学ぶ前は、水が世界中に当たり前にあると思っていたけれど、そうでないことが分かった」「世界には清潔な水を得るために、毎日何十分もかけて水くみに行かないといけない子どもたちがいることを知った」など、世界の水問題を知って驚いたようすがたくさん見られました。

また、「この学習をしてからは、水道の蛇口から水が落ちていたらしっかり蛇口を閉めるようになった」「日本が協力してルワンダの水問題を解決していることを知り、これから水は無駄にできないと思った」など、世界の現状を知り、学んだことを生かし、自らの生活と結び付けて考えることができた児童の姿がありました。

## グローバルな視点を育むために

2021年度は、3、4年生を対象にJICAルワンダ事務所とのオンラインミーティングを実施し、ルワンダにまつわる水問題について引き続

き学習をしています。また、中央アジアのアラル海に焦点を当て、世界の水問題について新たな視点で学習を進めています。

今後も児童に世界に目を向けさせ、視野を広げさせるとともに、日本に住む自分たちに何ができるのかを考えさせることができるような単元の開発に取り組んでいきたいと考えています。

写真3 学んだことを毛筆で表現



写真4 校区の水源地の水でたてたお茶を販売



写真5 募金活動を行う児童



※ 本実践はJSPS科研費20H00745および21H03976の助成を受けた成果の一部である